

日本財団聴覚障害者奨学金事業奨学生同窓会



20周年記念座談会



1.福祉「ろう者が専門職として活躍するためには」



2.情報保障「地域で支える—情報保障と社会システム構築の現場から」



3.ろう教育「ろう教育の現場～10年ほど前と今とで現場は大きく変わったのか」



4.早期教育「小さな手のことば—乳幼児期の支援と家族の力」



5.手話言語学「ことばの科学—手話言語学と教育の未来」



6.ろう者の身体感覚から生まれる可能性



7.学際領域+クロストーク「交差性」

2004年にスタートした日本財団聴覚障害者海外奨学金事業は20周年を迎えました。奨学生たちは各分野で活躍し、海外での学びを通じてろう・難聴者としてのアイデンティティや手話言語の価値を再構築してきました。記念誌では、専門領域ごとの座談会を通じて、その軌跡と未来をたどります。QRコードからご覧ください。

